

ベトナムとインドネシアの比較からみる

有用樹種「テツボク」の利用の特徴とその変容

平成 17 年入学

派遣先国：ベトナム，インドネシア

鈴木 遥

キーワード：地域住民，木材資源利用，テツボク，インドネシア東カリマンタン州，
ベトナムコントゥム省

対象とする問題の概要

熱帯雨林の周縁に暮らす人々にとって木材は生活を支える重要な材料であるが、その中に「テツボク」と呼ばれる樹種がある。「テツボク」という呼び名は鉄木、つまり鉄のように硬い木ということに由来し、地域の重構造材や建材として重要な樹種である。テツボクは成長に非常に長い年月が必要であり、この点からみると人間と生きる時間スケールが大きく異なるという樹木の特徴を端的にあらわす樹種だといえる。筆者は、この「テツボク」と呼ばれる樹種に着目しその持続的な利用のあり方について研究を行っている。これまでインドネシア東カリマンタン州においてボルネオテツボク (*Eusideroxylon zwageri* Teijsm.& Binn.) に着目しその利用の特徴及び変容について研究を進めてきた。ボルネオテツボクは現存量の減少が危惧されているが、地域の家屋の基礎材などに依然として重要な材料であることなどがわかっている。

研究目的

本研究の目的は、東南アジア大陸部のベトナムと島嶼部のインドネシアに焦点を当て、「テツボク」と呼ばれる樹種の生育地域における利用の特徴とその変容について明らかにすることである。さらにベトナムとインドネシアの地域間で比較を行い、「テツボク」の利用の地域的特性を明らかにする。

調査は 2008 年 1 月 7 日から 2007 年 3 月 15 日にかけて行った。調査地域は、ベトナム中部のコントゥム省コントゥム市及び市周辺のコルバン村やケプラン村などの約 10 村、インドネシア東カリマンタン州サマリダ市である。ベトナムでは上記した地域において家屋に用いられる建材に関する調査を行った。またコントゥム市において、木材小売店を対象として木材価格及びその生産地などに関する調査を行った。インドネシアでは東カリマンタン州サマリダ市において木材小売店を対象にボルネオテツボクの価格や流通に関して聞き取り調査を行った。

フィールドワークから得られた知見について

東南アジア大陸部ではピンカド (*Xylia xylocarpa* Roxb.) などが「テツボク」として知られているが、ベトナムコントゥム市周辺では Trác (*Dalbergia* 属の樹種) という樹種がテツボクとして認識されていた。Trác は写真 1 に示すような家屋や写真 2 のような村の集会所の基礎材や柱材として多く用いられている。基礎材は加工された角材ではなく丸太のまま木材が用いられている点が特徴的である。表 1 には

基礎材について調査世帯 25 世帯の平均値を示す。基礎材は建築当時から永続して用いられており、家屋は 30 年前ごろに建てられたものが多かった。しかし、政府による少数民族の移住政策の際に、テツボクは他の材に代替される、または写真 3 のようなセメントへ代替される変化が起こっている。

地域住民は Trác を森林から伐り出し利用している。コントゥム省の森林は政府によって管理されているが、地域住民による木材利用は、慣習的に残る村ごとの森林管理によっている。調査の中で建材として利用する木材は村によって異なることが示唆されたが、これは利用する森林の違いによる可能性が大きい。一方で地域住民は木材小売店で購入する場合もあるが、小売店にはコントゥム省の北部地域や隣国のラオスから木材が流通してきている。

インドネシア東カリマンタン州サマリダ市におけるボルネオテツボクについては、主に西クタイ県、クタイ・カルタヌガラ県及び東クタイ県から流通していることがわかった。以上の結果とこれまでのインドネシアにおける調査の結果をふまえて、ベトナムとインドネシアの「テツボク」の利用を比較すると、両地域において「テツボク」は家屋の基礎材として重要な樹種であるといえる。そして地域住民による「テツボク」の利用は、地域における森林の状況、地域の森林管理体制の違い、さらに政府による移住政策などが深く関係していることが示唆された。



写真1 ケプラン村の家屋



写真2 モーナイ村の集会所

家屋あたりの		
直径(cm)	長さ(cm)	本数
27	331	21

表 家屋の建材の
大きさと本数



写真3 コンクリートの家屋

今後の展開・反省点

ベトナムコントゥム省では、先行文献などでいわれる樹種とは別の種がテツボクと認識されていた。本調査ではこの点を確認することに非常に時間がかかり、実際のテツボクの利用について詳細に調査す

ることができなかった。今後は家屋や集会所の基礎材に焦点をしばって詳細な調査を進めていきたい。

ベトナムコントゥム省では政府による移住政策により村落の大規模な移動が進められ、それに伴い家屋の建て替えが行われ建材利用に変化がおこった。インドネシア東カリマンタン州においても移住政策が進められた経緯があり、その際に木材利用に変化が起こっている。したがって、今後は政府による移住政策と家屋の建材との関連についてさらに研究を進めたい。さらに、本調査では地域の森林所有や管理の状況が建材利用に大きく関係していることがわかったので、慣習的に残っている村ごとの森林所有など状況及び森林植生についても調査を進めることを検討中である。

参考文献

Sarakat Danimihardja and Soedarsono Riswan. (1994) *Plant resources of South-East Asia no.5 (1) Timber trees : major commercial timber*. PROSEA, 264-269, 342-345

Sarkat Danimihardja, Djunaedi Gandawidjaja. (1995) *Plant resources of South-East Asia no. 5 (2) Timber trees : minor commercial timbers*. PROSEA, 234-239